7　消費者に向けた家畜保健衛生所のアプローチ

県央家畜保健衛生所

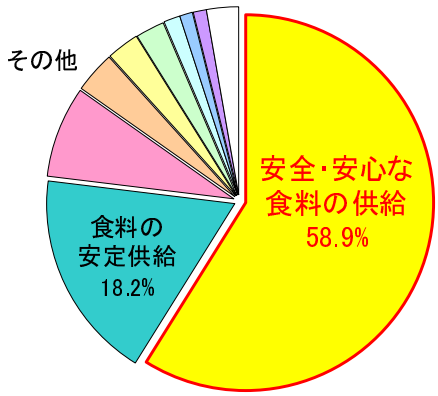
田村　みず穂　　牧野　敬

久末　修司　　前田　卓也

はじめに

家畜保健衛生所（以下、家保）の主要業務は、畜産農家を対象にした家畜伝染病の発生予防及びまん延防止や家畜の飼養衛生管理の指導であり、家畜衛生の向上を図り、畜産の振興に努めてきた。さらに平成8年度のＯ157による食中毒や平成13年度の牛海綿状脳症（以下、ＢＳＥ）、平成15年度の高病原性鳥インフルエンザ（以下、ＨＰＡＩ）の国内発生などにより生産現場における食の安全・安心確保の取り組みとして、死亡牛のＢＳＥ検査や飼料の安全性確保対策の指導、農場ＨＡＣＣＰの指導などを実施してきた。このような取り組みを実施する背景には、食に関する様々な問題が顕在化する中で、消費者の食の安全・安心への関心が高まっていることがあげられる。

神奈川県県民局が行っている県民ニーズ調査[1)]では、県民の約6割が、農業に「安全・安心な食料の供給」を期待している（図１）。平成13年度以降畜産分野では、ＢＳＥやＨＰＡＩ、口蹄疫などの国内発生が続いており、この期待は畜産業へも向けられている。畜産物の安全・安心の確保は消費者と生産者が互いの状況を理解し協力して取り組むことが重要である。そのため畜産農家だけでなく消費者にも家畜衛生に対して、理解を深めてもらう必要がある。特に、神奈川県は農場周囲で都市化が進んでいることや、農家が直売やイベント等を通して消費者と接する機会が多い環境にあり、消費者にとって農家は身近な存在で



平成22年度県民ニーズ調査より

図１「農業にどのような役割を期待しますか」

ある。

そこで、家保が畜産農家で行っている衛生対策について家保から消費者へ情報提供し家畜衛生について理解してもらうことにより、畜産物の安全・安心へとつなげてもらおうと考え（図２）、県央家畜保健衛生所施設公開とかながわ食の安全・安心基礎講座を実施したので紹介する。

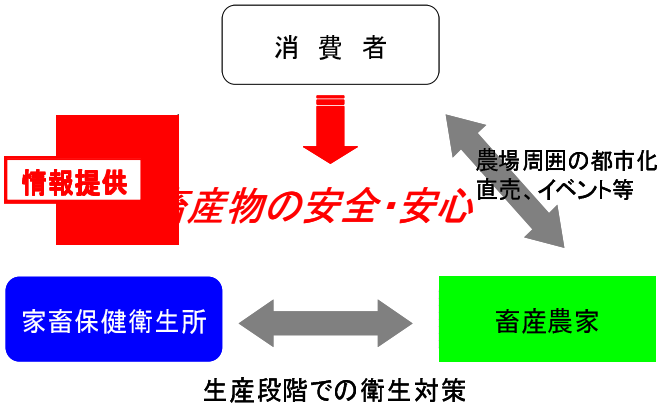


図２　消費者へのアプローチ

県央家畜保健衛生所施設公開

写真１　県央家畜保健衛生所施設公開

家保の施設公開は平成21年度の家保再編整備を契機に、県農業技術センター畜産技術所とともに「家畜に親しむつどい」の一部として消費者へ向けて年1回開催している（写真１）。施設公開の来所者は平成21年度319名、平成22年度513名、平成23年467名と天候の影響もあり年度間でばらつきはあるものの、3年間で約1,300名近くであった。

１　公開内容

施設公開の内容は家保業務を理解してもらうことを目的として、毎年内容を変更及び追加しているが、平成23年度は、所内の入り口に近いところに県の畜産や家畜伝染病予防法にかかわる検査などについて業務説明パネルを展示し、その前の机に実際に業務で使用する注射器や保定器、シャーレやピペットなどの器具・器材を並べ、自由に触れられるコーナーを設けた（写真２、左上）。また、「牛のおいたちを調べよう」と題し、パソコンや携帯電話を使用して実際に牛の個体識別情報を検索してもらい、トレーサビリティ制度について知ってもらった。「顕微鏡をのぞいてみよう」では、グラム染色した大腸菌とブドウ球菌を顕微鏡で観察してもらった。身近で一般的な細菌に興味をもった人が多く、特に大人に人気が高かった（写真２、右上）。その他、獣医師体験ができる催しでは「牛の直腸検査を体験してみよう」として牛の模型を用いた直腸検査の体験（写真２、左

下)、「鶏の心拍数を調べよう」として生きた鶏の聴診を実施したほか（写真２、右下)、防疫服や白衣、面布を着て写真撮影できる「フォトポイント」を設置し、子供も楽しみながら参加できるよう工夫した。また、展示物全体を題材とした、「家保探検クイズ」を作成し入り口で来所者に配布し、展示物にも興味をもって参加してもらえるようにした。

写真２　実施内容

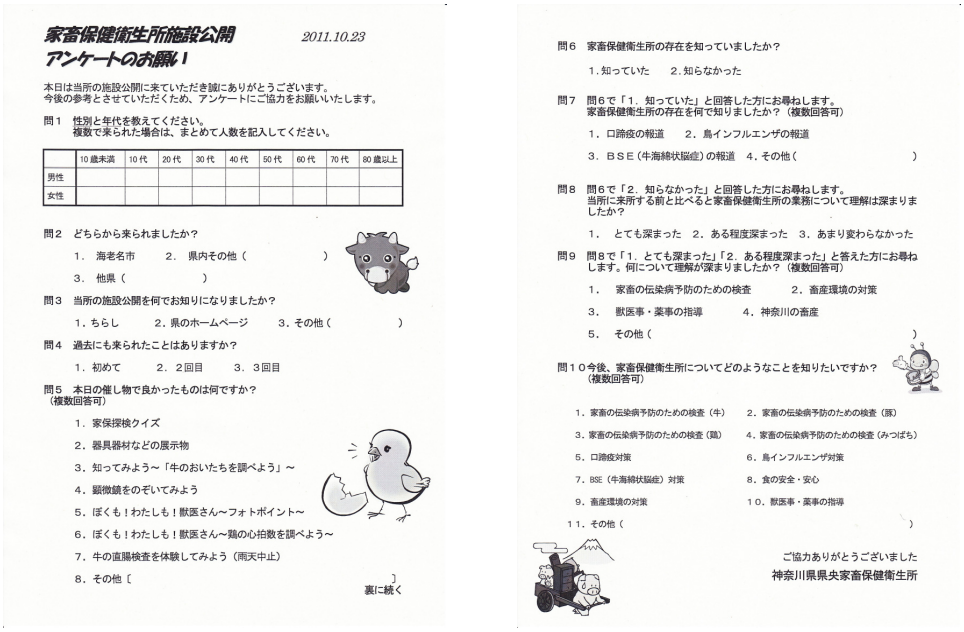
２　アンケート調査の実施

今年度からの取り組みとして、来所者に施設公開の内容の理解度を把握するため、アンケート調査を実施した。アンケートは来所者の項目および催しものや家保業務について選択式の問いを設けた（図３)。アンケート用紙は、来所者のグループごとに150枚配布し、138枚を回収した。回収率は92％だった。なお来所者に関する項目以外はそれぞれのグループの代表者の意見を回答してもらった。

アンケート調査の結果、平成23年度の来所者の年齢別構成は、40代男女が87名と最も多く、10歳未満が76名、30代が70名となり、家族づれが多く訪れていた（図４)。

催し物の中で良かったものは、「家保探検クイズ」が25.8％ と最も多く、続いて「顕微鏡を

のぞいてみよう」が23.7%、「鶏の心拍数を調べよう」が15.9%だった。楽しみながら参加できるものや、実際に体験できるものが人気を集めた（図５）。



家畜保健衛生所施設公開　2011.10.23
アンケートのお願い！

本日は当所の施設公開に来ていただき誠にありがとうございます。
今後の参考とさせていただくため、アンケートにご協力をお願いいたします。

問１　性別と年代を教えてください。
複数で来られた場合は、まとめて人数を記入してください。

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
男性									
女性									

問２　どちらから来られましたか？
１．海老名市　２．県内その他（　　）
３．他県（　　）

問３　当所の施設公開を何でお知りになりましたか？
１．ちらし　２．県のホームページ　３．その他（　　）

問４　過去にも来られたことはありますか？
１．初めて　２．２回目　３．３回目

問５　本日の催し物で良かったものは何ですか？
（複数回答可）
１．家保探検クイズ
２．器具器材などの展示物
３．知ってみよう～「牛のおいたちを調べよう」～
４．顕微鏡をのぞいてみよう
５．ぼくも！わたしも！獣医さん～フォトポイント～
６．ぼくも！わたしも！獣医さん～鶏の心拍数を調べよう～
７．牛の直腸検査を体験してみよう（雨天中止）
８．その他〔　　〕

裏に続く

問６　家畜保健衛生所の存在を知っていましたか？
１．知っていた　２．知らなかった

問７　問６で「１．知っていた」と回答した方にお尋ねします。
家畜保健衛生所の存在を何で知りましたか？（複数回答可）
１．口蹄疫の報道　２．鳥インフルエンザの報道
３．ＢＳＥ（牛海綿状脳症）の報道　４．その他（　　）

問８　問６で「２．知らなかった」と回答した方にお尋ねします。
当所に来所する前と比べると家畜保健衛生所の業務について理解は深まりましたか？
１．とても深まった　２．ある程度深まった　３．あまり変わらなかった

問９　問８で「１．とても深まった」「２．ある程度深まった」と答えた方にお尋ねします。何について理解が深まりましたか？（複数回答可）
１．家畜の伝染病予防のための検査　２．畜産環境の対策
３．獣医事・薬事の指導　４．神奈川の畜産
５．その他（　　）

問１０今後、家畜保健衛生所についてどのようなことを知りたいですか？
（複数回答可）
１．家畜の伝染病予防のための検査（牛）　２．家畜の伝染病予防のための検査（豚）
３．家畜の伝染病予防のための検査（鶏）　４．家畜の伝染病予防のための検査（みつばち）
５．口蹄疫対策　６．鳥インフルエンザ対策
７．BSE（牛海綿状脳症）対策　８．食の安全・安心
９．畜産環境の対策　１０．獣医事・薬事の指導
１１．その他（　　）

ご協力ありがとうございました
神奈川県県央家畜保健衛生所

図３　アンケート調査用紙

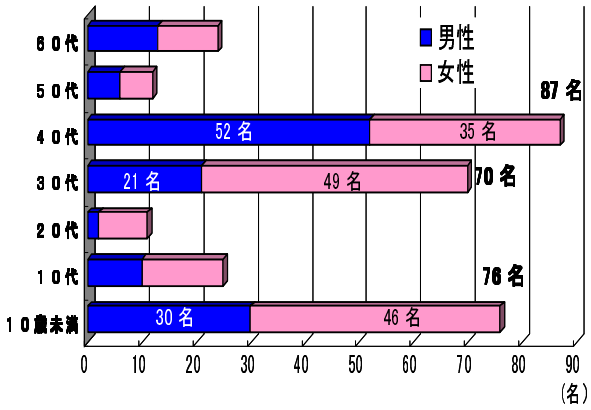


図４　来所者の年齢構成

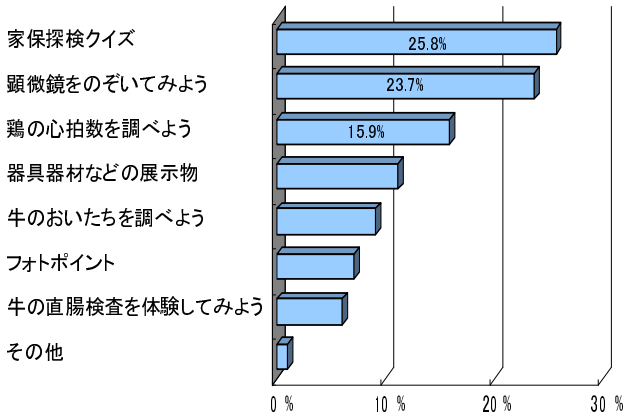


図５　人気のあった催し

家保については、来所者の45.7%が「家保の存在を知っていた」と答え、そのきっかけとして多くの人が口蹄疫や鳥インフルエンザ、ＢＳＥの報道をあげた。家保を知らなかった人に対して「来所する前と比べると家保の業務について理解は深まりましたか」と聞いたところ、97.9%が家保の業務について「理解が深まった」と答えた。その中でも、「家畜伝染病予防のための検査」が38.5%と最も理解が得られたことが分かった（図６）。

「今後、家保についてどのようなことを知りたいですか」という問いには、20.7%が「食の安全・安心」と答え、消費者の関心の高さが伺えた。ついで「鳥インフルエンザ対策」が15.7%で

あった（図７）。

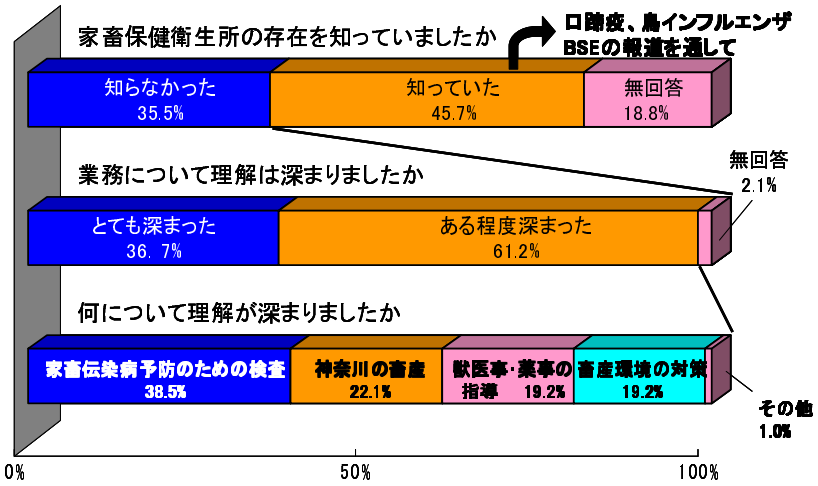


図６　家畜保健衛生所について

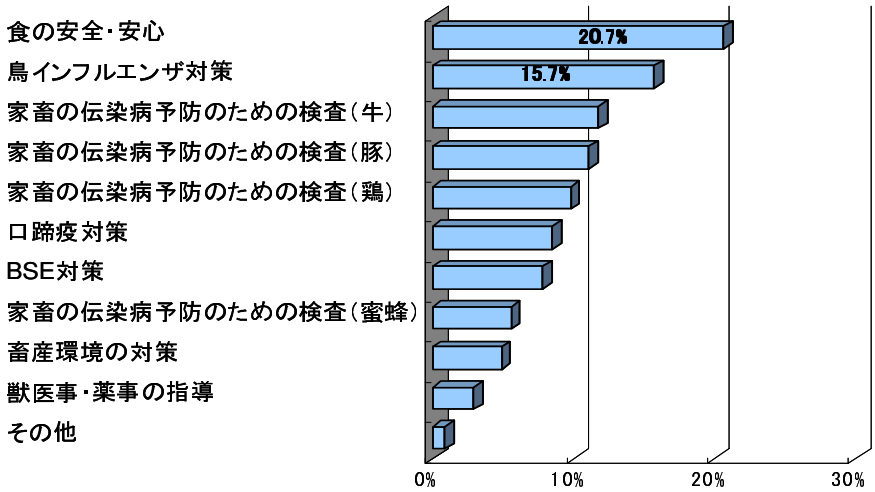


図７　今後知りたいこと

かながわ食の安全・安心基礎講座

平成22年度は、「かながわ食の安全・安心基礎講座」を開催した。これは神奈川県食の安全・安心推進会議と連携した全庁的な取り組みの一環で実施したもので、消費者へ向けて食の安全・安心に関する基礎的な情報を発信し、情報の共有化を図る講座である[2)]。家保職員が「健康な家畜の生産と家畜保健衛生所の仕事」と題し、家保業務および口蹄疫についての講義や家保の施設見学、質疑応答を行った（写真３）。終了後のアンケート調査結果から30代、40代、60代がそれぞれ25％ずつ参加して

いることが分かった。「家畜保健衛生所についてご存じでしたか」との問いに対しては、約40％が「知らなかった」と答えたが、全ての人がこの講座を受講し、健康な家畜の生産について「理解が深まった」と答えた。

写真３　かながわ食の安全・安心基礎講座

まとめ

家保は畜産物の安全性を確保するため、畜産農家とともに家畜衛生対策に取り組んできた。しかし、家畜衛生をとりまく情勢の変化から消費者へ視点を移した畜産物の安全・安心の確保も重要になっている。今回、家保が消費者に施設公開や講座を通して生産段階での衛生対策について情報提供した。その結果、消費者に畜産農家や家畜衛生の正しい知識を知ってもらうとともに家保業務について理解を深めてもらうことができ、畜産物の安全・安心の理解へとつなげることができた（図８）。

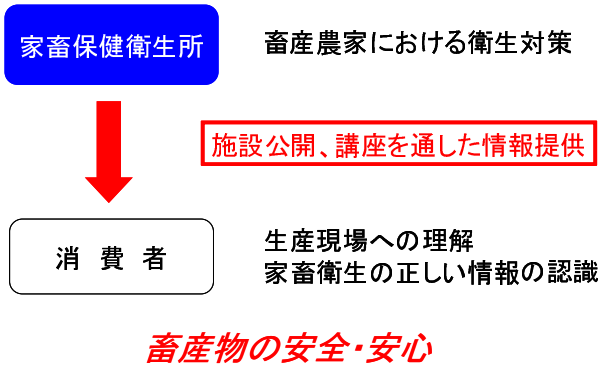


図８　まとめ

一方消費者が、今後消費者が知りたいこととして、「食の安全・安心」を最も多くあげられたことから引き続き、消費者との意見交換の場を設けるなど情報の共有化を図り、畜産農家が行っている飼養衛生管理基準の遵守や農場ＨＡＣＣＰへの取り組みが食の安全・安心につながっていることを施設公開などを通じて理解してもらえるよう努めていきたい。

引用文献

1) 神奈川県環境農政局企画調整部：わたしたちのくらしと神奈川の農林水産業（平成２３年度版）

2) 神奈川県保健福祉局生活衛生部：かながわ食の安全・安心行動計画（平成２２年度版）